

第2回  
台東区基本構想策定審議会  
小委員会第1グループ

日時 平成29年12月15日  
場所 台東区保健所3階大会議室

台東区企画課

○出席者  
(9人)

委員長	有村 久春	委員	西 智子
委員	伊藤 正次	委員	太田 雅久
委員	小坂 義久	委員	石塚 麻梨子
委員	山藤 弘子	委員	黒田 収
委員	石原 喬子		

○欠席者  
(1人)

委員	峯岸 由美子
----	--------

○事務局

企画課長	前田 幹生
都市交流課長	段塚 克志
区民課長	飯田 俊行
子育て・若者支援課長	三瓶 共洋
子ども家庭支援センター長	川口 卓志
庶務課長	岡田 和平
学務課長	山田 安宏
児童保育課長	佐々木 洋人
放課後対策担当課長	福田 兼一
指導課長	屋代 弘一
教育改革担当課長	小柴 憲一
生涯学習課長	小川 信彦
スポーツ振興課長	廣部 正明
中央図書館長	齋藤 明美

(午前10時00分開会)

## 1. 開会

### ○事務局

—配布資料及び委員出席状況の報告—

—参考資料についての説明—

## 2. 議題

### (1) 各分野の20年後の望ましい姿について

#### <子育て分野について>

### ○委員長

今回は現状について、皆さんから色々なご指摘をいただきました。今回は、各分野の20年後の望ましい姿について審議をし、第3回小委員会で、その20年後の望ましい姿を決定するというゴールにしたいと思っています。そこで本日は、アイデアを色々出し合っていたいただき、委員の皆さんが考える20年後の望ましい姿や、それに関連するキーワード等について発言していただければと思っています。ぜひ、夢や希望を語りたと思っていますので、よろしくお願いします。

最初に子育ての分野です。

### ○委員

委員長から20年後を踏まえてというお話がありました。先ほど事務局から説明があった人工知能は、この子育て分野には当てはまらないと実感しています。次の20年を見据えた場合、地域はもちろん台東区全体で、子供を産み育てることにに関して喜びと自信を持てるようバックアップすることが大切かと思います。

このシートに記載された「課題解決に向けた施策の方向性」①の「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」では、恐らく出産は増えないと思いますので、他の子供も一体となって育成するような地域のバックアップも必要ではないかと思います。家庭や地域、また学校との連携教育はもちろんのこと、行政機関との速やかな連携も大切になってくると思います。また、さらなる子育て支援、サービスの充実のために、子供に特化した施設を開設していくことも必要ではないかと思っています。

それから、②の「仕事と子育てが両立できる環境の整備」ですが、民間企業も含めて、子育てに対する意識の変革を図っていく必要があると思います。待機児童対策の充実をどう図っていくのか、現在も待機児童の問題があるなかで、次の20年後はどうなるかよく分かりませんが、今のうちから様々な対策を立てていく必要があると思います。

③の「配慮を要する子供や家庭への支援」ということで、これに関しては、児童虐待の対策などの教育の重要性や多彩な個性を尊重することが非常に大切になってきます。教育はやはり一番多岐にわたる分野だと思います。それから、児童相談所等も本格開設になっ

てくると思います。

### ○委員長

ありがとうございます。虐待の問題は子供の心の問題のところに非常に影響しますので、重要な課題だと思っています。

### ○委員

前回の話にもありましたが、子育て中の親子の居場所ということで、石浜小学校では、親が働いている、いないにかかわらず、子供が放課後に利用できる施設の運営がスタートしており、これから区全体で進めていくというお話でした。そのような施設を整えてもらうのはもちろんなのですが、そこにただ預けるのではなく、預けている時間の保育の質や、学校施設を使った地域の方との関わりを増やすようなプログラムを、きちんと計画立ててやっていけたら良いと思います。

利用方法も、子供だけが放課後いるのではなく、台東区に全然ゆかりのない方でも地域とつながりが持てるような、あるいは週末使えるようなかたちにして、地域の子育てをしている家族と地域の方が結び付くような活用の仕方を検討し、充実させていくことが求められるのではないかと思います。

### ○委員

昨年度、子ども教室が石浜小学校の学校内に開設され、区とも相談しながらやっています。今は地域の方々に助けられてやっけていける面もありますが、なかなか難しいところもあります。例えば、家にいる方に、囲碁や将棋を教えてもらうようお願いしても、なかなか出てきてくれないのが現状です。子供たちが学校内に居場所があるということは、親も本当に安心ですし、ありがたいということは確かです。ただ、地域の方の協力はなかなか難しくなっているようで、もっとこちらに入ってきてもらうというか、お互いに学校にも気軽に行き来ができるような関係に 20 年後なっていったら良いと思います。

### ○委員

人間同士のつながりが非常に希薄になってきているといわれていますが、台東区は町会組織がとてもしっかりしています。そういう意味では、他の地域と比べると、地域ボランティアに参加したいという気持ちはあると思うので、そういった仕掛けができれば良いと私も思っています。

この間、私は石浜小学校へ放課後のスポーツ指導に行ってきましたが、ものすごく良い雰囲気で行っていました。毎週行ってあげたいと思ってしまうぐらい、本当に素晴らしい環境で行っています。あのような環境をまず見てもらって、自分たちができることは何かないかということをして仕掛けても良いのではないかと思います。

## ○委員長

ありがとうございます。今まで中身の運営はどちらかというと、ボランティアを募って雇う形でしたが、今委員がおっしゃったように、ここ 20 年位の動きを見てみると、それでは限界があるような気がします。これは行政で考えていただくことになるかもしれませんが、来たら報酬が出るなど、何かインセンティブがないとなかなか続かないと思います。20 年後しっかりとした子育てをしていく上では、そういう職業を作っても良いかもしれないと思いました。いつまでもボランティアに頼るという発想だけでは、非常に難しい気がします。人の心を育てる際、子どもに特化した施設というのは非常に大事な指摘ですが、それを人や地域の優しさやボランティアだけでできるかということ、なかなか難しいです。

余談ですが、大学では非常勤講師を雇うことが結構ありますが、ボランティア的な発想で「来てくれませんか」とお願いしても絶対に駄目です。非常勤ほど高い報酬を付けて、「これだけ報酬を与えるから来てくれ」と依頼すると、しっかりした人が来てくれます。それはこれからの人の使い方だろうとも思います。

## ○委員

まず 20 年後を考える時、今の台東区にあるもので、何を残すのかという視点をきちんと持っていないといけないと思います。「町会の力は大きい」、「地域の人たちが関わるチャンスがある」というようなことは各委員も発言されていますが、20 年後この台東区の子育てで何を残すのかはきちんと整理しておくことが必要だと思います。

その中で、切れ目のない子育てとして「ゆりかご・たいとう」のように、妊娠期からどれだけ地域と根付くような関係づくりをしていくか、ということが重要だと思います。そのためには、各世代の居場所づくりと、親が子育てに自信をもつため、親が育ち合える場所づくりが重要です。そうすると、生まれたときから常に地域の見守りがつながっていく「ネウボラ（※妊娠から出産、子どもが生まれた後も基本的には 6 歳まで切れ目なくサポートを提供する、フィンランドの総合的な支援サービス）」という仕組みや、母子手帳をもらった妊娠期から「あなたの地域はこの保育園へいつでも遊びに行っても良い」という、マイ保育園構想が案として考えられます。マイ保育園構想は、虐待予防の仕組みでもありますが、そのためだけの場所ではなく、遊び場として開放することで保育園の仕事として地域での子育てをバックアップします。保育園の仕事として組み込まれる以上、区はしっかりと職員配置等バックアップする必要があります。

有償ボランティアについて、今は国の制度として「子育て支援員養成制度」があります。地域に貢献したいと思っている 60 代前後の方はたくさんいらっしゃいますがそのチャンスがありません。そこで、この「子育て支援員制度」を区独自で膨らませるかたちで、そういう世代の方たちが気軽に勉強しつつ子供と接する場をつくっていくという仕組みを作れたら良いのではないかという気がしています。

最初に言ったことなのですが、残していくべきことをきちんと整理して、台東区の地域

の良さを行政としてお金をかけて守っていくことが必要ではないかと感じています。

### ○委員

現在私は子育てをしており、よく未就園児を対象としたイベントに子ども家庭支援センター、児童館、保育園や幼稚園へ行っています。そこで職員や先生、他の利用者の方たちと知り合うことができます。子育てをしていると、不安なこともあるのですが、そのような時に、これまでの交流が非常に支えとなっていることを実感しています。そうした交流は、台東区ならではの人の温かさが他よりあるため、より実感しているのかもしれませんが。

### ○委員長

虐待の問題や子育てに関わる親の不安を解消するため、親同士で話したりする際に、相手の気持ちを受けとめたり、相手の気持ちをどうやってみ取ってお互いに理解して関わりを持っていくか、というスキルが必要な気がします。そういう意味では、例えば20年後今の子どもたちがお母さんお父さんになったときに、ママ友あるいはパパ友との関わり方を学習させる仕組みも必要な気がします。「交流が支えになる」ということは非常にキーになると思いました。親同士が関わるのが、虐待の防止につながります。

### ○委員

保育園でも色々な広場を開催しており、そのことが少しずつ浸透していますが、23区の中でも、ある程度お金を付けてくれている地域の保育園は積極的にやれています。非常勤でも良いので職員が採用できれば、週1回から週3回実施に増やすことができます。これから、この動きを盛り上げていくにあたり、小さな子供の保護者同士の交流だけでなく、中学生の親と子育て中の親、そのような縦関係の親の交流が、町会の力としてきちんと基盤ができている台東区ではやりやすいのではないかと思います。子供が中学生になった頃に初めて父親が子育てに参加しても、そこからきちんと教育をするというのは難しいことです。それこそ2歳児の第一次反抗期から父親が関わっていると、母親の気持ちは非常に楽になるし、子育てに父親も具体的に関われます。

20年という期間は、子育ての視点ではあっという間です。基本的に子供の育ちは20年で変わりませんが、親は絶対に育っていきます。子育て当初の「子育てが辛い」という相談が多い時期を、専門家が支えるだけでなく、地域で支える仕組みを作ることが重要ではないかと感じています。

### ○委員

私も子供を初めて産んだとき、仕事の関係で日中は台東区にいなかったので、全く知り合いがいない状況でした。出産をした病院では、妊娠時から母親学級というかたちで、生まれてからの抱っこのやり方等を教えてくれました。しかし、そこで仲良くなったお母さ

んたちで、子育てが始まったときに会えた方はとても少なかったです。病院や保健所でそのような学級をやっていただいています、それを保健所で実施しないといけない理由が私には分かりません。専門家が来やすい、医療面でここのほうが良い、というのがあるのかもしれませんが、地域の幼稚園や小学校で母親学級のようなものを実施していただきたいと思います。必ずしも現住所に出産した後も住み続けるとは限らないと思うのですが、産んだ後に公園に連れて行くと、その地域の方に会う確率はとても多く、妊娠時から地域の方と関われるような仕組みを作っていくには、幼稚園や保育園、小学校がキーになってくると思います。

あるいは、小学校ではなく南部地域や北部地域などエリアごとでも良いと思います。そうすると、産んでから地域の子育て支援センターに行ったときに、近所だったということと一緒に遊ぶ機会も増えたりしますし、そういうことはとてもありがたいと思います。新住民からすると、特に最初の子供の子育てはかなり不安だと思うので、母親がただ勉強するだけの母親学級ではなく、父親とも一緒に参加して交流する場、子どもを楽しく育てていけるような、出産する前にある不安を取り除けるような、地域の温かさに触れられるようなかたちで、本当に今住んでいる地域でそういう居場所を作っていけたら良いと今お話を聞いて感じました。

## ○委員

就学前教育の推進の中で、無償化が言われています。無償化は日本より韓国が早く開始し、3年前には年長が、昨年度から3歳以上が全部無償化になりました。収入に関係なく無償化になった結果、裕福な人は私的なお稽古ごとや教育にお金をかけて、そうでない子供たちは何もできないという格差が生まれているのではないかという話を聞きました。単に無償化すれば全てにおいて就学前教育が平等になるかという、違う格差が出てきます。日本より先に無償化したという国の話を聞いて、やはりそういう格差を生まないための放課後の時間の使い方を、地域で何か学べるようにしていかないと、20年後格差を生むだけのものになったら嫌だと思いました。

## ○委員長

ありがとうございました。先ほど、町会の役割が子育てでは非常に大きいのではないかという指摘がありました。何か良いアイデアかご指摘がありましたらお願いします。

## ○委員

良いアイデアかどうか分かりませんが、私どもの地域で10年前に「マロニエ祭り」というものをつくり、阿波踊りをそこに取り入れました。3年前から、地元の台東育英小学校の生徒たちがそれを取り入れて一生懸命やり、だいぶうまくなっています。報酬を多少差しあげればボランティアの方も責任感を持って育ててくれるだろうと思います。台東

区は妊娠、出産、子育てというものはしっかりやっていますが、それだけではなく、先ほど委員もおっしゃいましたけれども、20歳位の人たち、いわゆる若者の総合支援、総合センターを作った方が良いと思います。

## ○委員

もう既に皆さんおっしゃっていますが、やはり今後20年を考えると、前半の10年で子どもは増えていき、後半で減っていくという状況の中、子育てに対するニーズはこれからどんどん増え、中身も多様化していくと思います。その際、「台東区で子育てをする」ということ自体に魅力を感じるようなサービスを提供する体制、あるいは担い手を作るといった視点が重要なのではないかと思います。その際には、20年後の台東区が、他の自治体に比べても子育てがしやすく、新たに子育て世代の方を呼び込めるという状況を作り出すということもさることながら、今台東区で育っている子供たちが、今後台東区で子育てをしていく、そういう住み続けるというような視点も重要なのかと思っています。

先ほど、母親学級と申しますか、小中学校との関係ということがありました。担い手が今後不足していくというのは確実かもしれません。例えば台東区で育った人が、台東区で保育士なり児童福祉士なり、サービスを提供する側に立っていきたい、そう思えるような機会を、教育の場面でも色々提供できることはあるかもしれません。その部分も少し考えなくてはいけないのではないかと思います。

## ○委員長

ありがとうございます。一応ここでの区切りで子育て分野についてはもう終わりにしたいのですが、事務局の方で何か今の点でおっしゃりたいことはありますか。

## ○事務局

今、各委員から様々な貴重なご意見を頂戴しました。特に、各世代の居場所、親と地域のつながりの場づくりについて、あるいは保育の質、子育てのしやすさ、住み続けられる町であるというところ、そういった観点でいろいろご意見をいただいたことにつきましては、また事務局でも整理をさせていただきたいと思っています。

## <教育分野について>

### ○委員長

教育分野では、前回マイナス面が強調されているので、プラス面はないかという指摘をさせていただきます。そのことについて事務局から説明を聞きたいと思います。

### ○事務局

—教育についての説明—

### ○委員長

ありがとうございます。補足も含めてご意見ありましたらお願いします。

### ○委員

教育は本当に大切な分野だと思っています。次の20年を踏まえると、先ほど事務局からお話がありましたが、たくましく生きるために、どう個性を生かした教育を推進していくかが重要な観点だと思います。

日本は間違いなく少子高齢化になりますので、子供・児童一人ひとりがまさしく宝の存在だと思います。そういう意味で、どのように子供・児童生徒を、今後の日本を担っていけるようなしっかりとした人材にしていくか、そこが教育の持つ一つの重要性、価値であると思います。

また、子供たちもですが、もう一方の主人公である教員にもっと目をかけてやる必要があるのではないかと思います。ロボットは教育の部分では教えられません。やはり人と人との触れ合いというのが、教育においては必要です。その意味では教員の指導力、教員をどう育てていくかという観点で、今問題となっている教員の様々な校務中の問題などをしっかりと次の20年に向けて改善していく必要があるのではないかと思います。

それから体力向上、これも常に教育で指摘されているところです。台東区は狭い地域ですので、思い切って体を動かせる場所が少ないです。その意味では、隣接区や隣接県とタッグを組んで、体を動かせる施設、広場を設けていくのも一つの手かだと思います。

先ほど、子育て分野で居場所づくりの話がありました。小学生までの居場所は放課後子ども教室について教育委員会で取り組んでいるところです。一方、中学生や高校生の居場所については、よく児童館がいわれますが、例えば生涯学習センターを次の20年に向けて大規模に改修して、中学生、高校生が居場所として行けるような施設にしても良いのではないかと思います。

### ○委員

台東区は家族や学校内の子供たちも多様化していますので、人権教育とともに育ち合うという意識をまずスローガンとして置いていけたら良いと思います。外国人に限らず、障

害をお持ちのお子さん、こちらの地域でずっと住んでいる方ではない新しい住民の方などが入り混じって、新しい台東区の文化を作っていくと思います。そういった異なる人権とも一緒に育っていくという視点が外せないのではないかと思います。

台東区は観光で訪れる外国人や、区内に住んでいる外国人が多い区です。これから20年後という、本当に当たり前のようにグローバル化は進んでいると思いますので、異文化が共存している環境を資源として生かした、台東区ならではの教育を、区のほうできちんとプログラムとして考えていけたら良いと思っています。

子供も、実際に英語を使ってみないと、その必要性や学ぶ喜びは分からないと思います。外国人の方がいるところで子供が主体的に学ぶ教育や、「ガイドブックには載っていないけれど、僕たちが住んでいてこんなに良いところがある」という子供の目線からみた町の魅力を外国人に対して発信できる仕組みを作っていけると、子供たちも異文化への理解や勉強も進み、日本文化や地域に対して興味を持つと思います。台東区ならではの資源を生かした国際都市としての教育を進めていけたら良いと思います。また、外国人学生の生活と日本の学習サポートもぜひお願いしたいと思います。

## ○委員長

今のお話で、最後の「国際都市」というのは非常にキーになる表現だと思います。人権教育は、台東区ではかなり重視してやっていますので、ベースは整っていると思います。そこで、外国人が入ってきたときに、日本語教育や日本の教育に同化するための仕組みとして、特別に何かサポートしてあげないと難しいという現状があると思います。どのようにして台東区の良い文化を外国人に学んでもらうか、また外国の文化を台東区で学ぶか、という仕組みを作ることが課題だと思います。

## ○指導課長

今の内容につきまして、台東区では2020年のオリンピック、パラリンピックに向けて、区独自に台東区オリンピック・パラリンピック教育プランを策定しています。この中で5つの柱を置っていますが、その1つとして国際理解教育があります。委員ご指摘のとおり、これからはグローバル人材の育成ということが大きなテーマになってきます。そのときに、外国の文化を学ぶわけですが、外国の文化を学ぶためには、自分の地域の文化をしっかりと知っているということが大切です。今各学校では、このオリパラ教育、またおもてなし英会話ということで、外国語活動などで台東区のことを調べて、それを訪れる外国人の方々に発信していくというような取り組みを進めています。

もう1点、人権教育の関係で、本区は小中学校7校が毎年、国と東京都台東区の人権教育推進指定校の指定を受けて、その取り組みの発表を行っていただいています。これは、台東区だけではなく、東京都からも注目をされている取り組みで、毎年その研究発表等では、多くの地区からその実例を学びに先生方に来ていただいています。この7校が研究し

たことを共有し、各学校での教育課程を通じて人権教育を推進しているところです。

### ○委員長

ありがとうございます。国際都市という部分では、今言ったオリパラに向けたような教育というのは、2020年で終わることなく続けていく必要があります。そういう仕組みづくりを20年後にどう維持・発展させるかということが重要だと思います。また人権教育について台東区は非常に実績があり、これは普段の授業改善などにつながっているのではないかという気がします。台東区では、質の高いレベルの教育をしているという実態を知っていますので、非常に良い傾向ではないかと思っています。

### ○委員

学校では、「この先生の授業は分かる」、「この先生の授業は分からない」など、“良い先生”、“嫌な先生”がいるのですが、このようなことはなくなっていくことはあるのですか。

### ○指導課長

まず教員の力ということで、2つの面から捉えられるかと思っています。まず1つは、授業力、指導力だと思っています。これは、当然教員は子供たちに教える立場ですので、自分自身の力を常に高めていかなくてははいけません。そのために、私たち教育委員会としても、教員の研修というところを大変重視して取り組んでいます。校内で管理職や教員同士で校内研究というかたちで研修を進め、また私たちも1年目の教員を集めた初任者研修などを実施し、充実を図っています。

また、もう1点の面は、子供たちが好き、嫌いというところに関わるかもしれないのですが、やはり人と人との関係ですので、教員も人間としての魅力を持っている必要があると思います。その意味では、先ほど人権教育に触れさせていただきましたが、私たちは子供たちへの指導とともに、教員の人権感覚を高めるということも、この人権教育の一環として力を入れて取り組んでいるところです。

### ○委員

ありがとうございます。先日、外国のことを一人ひとりが調べて発表するという場が石浜小学校で行われていて、とても細かいことまで調べていて、本当に良いと思いました。これから小学校で英語の授業が始まるにあたり、先生方も「もっとスキルアップしなくてはいけないが、ここまでしか働けない」等、働き方改革との兼ね合いでうまく回らない点が色々あるという話を聞きました。中学校に行けば、英語は受験のため、試験のためとしてしか習わないので、苦手になっていきます。外国の方が今たくさんいるので、先ほどから出ている放課後子供教室に来ていただいて、子供たちが会話によって英語を学べる場があれば、さらに英語を好きになって、試験や受験に向けた勉強にも繋がっていくのかと思

いました。嫌いになると、私たち大人もそうですが、やらなくなります。ですから、ぜひ好きになるように、小中学生が外国人の方と授業でなく話せる、会話ができる場を設けていただけると良いと思います。

## ○委員

20年後には英語は当たり前の言葉になって、英語だけに満足している時代ではなくなってくるのではないかと思います。

それから、例えば絵が上手であるとか、スポーツが得意といった、すごい能力のある子供がいます。そういう子供たちがいたら、子供時代にしっかりそれを引き出してあげるような体制づくり、それも必要なのかと思います。

## ○委員長

ありがとうございます。

今出た個性の問題、特に6歳から中学校、高校時代までの年代を教育していくときに、文部科学省の規制がとて強すぎるので、学校の先生方も色々な難しさを感じています。台東区は教育資源が非常に恵まれており、文化芸術は世界でトップクラスのものを持っています。しかし、授業時間や教材などが公的にきちんと決まっているわけで、その持っている財産を、子供たちはなかなか学びきれない状況があります。それが足かせになっているところがあるので、できれば20年後は、「台東区はこれだけ資源があって、これを生かした教育プログラムがある」と積極的に提案し、特区の認定を受けられるよう法整備をしていただきたいと思います。

少し専門的な領域になりますけれども、小中学校は授業時間数がきちんと決まっていて、小学校は年間1,015時間、中学校は1,050時間となっており、その枠組みをはみ出せません。この枠組み内でどうやって効率的な授業をするか、台東区の小中学校の校長先生方が非常に苦労されています。これからの社会は、委員がおっしゃったように、能力のある子を伸ばすために、枠組みを離れた教育プログラムをある程度作れるようにする仕組みが必要ない気がします。そこは国も考えていただくことを期待しながら、先に台東区がそういうプログラムを作って提案しても良いのではないかと思います。

教育は少しずつ進むところがありますが、その少しずつ進む流れが、このグローバル化社会の流れに遅れを取っているところがあります。そこは少し残念なところがあって、特に英語教育は、台東区は資源に恵まれているところもあるので、例えば保護者や地域の方に、「英語をしゃべれる人には報酬を与えますので、どうぞ学校に来て喋ってくれないか」というような仕組みを作れば、結構集まるのではないかと思います。

## ○委員

今の委員長の意見に賛成で、これだけ文化遺産がある区はありません。日本の江戸から

の伝統的なものを含めて、それを子どもの教育の中にどう取り組んでいくか、特区的な取り扱いをしても良いから、自分の区を誇れるようなシステムを作っていただきたいです。

それから、いじめ、不登校の問題は、資料記載の表から分かる通り、明らかに悪い意味で伸びています。先ほど言った多様な価値観を認める教育は、いじめをなくしていく教育につながります。また、不登校をなくしていくために、これだけ文化を持っている台東区ですので、それぞれの子供の良さを引き出すような、俗にいう非認知能力（※忍耐力や社交性、自尊心など幅広い力や姿勢を含み、学歴や仕事など将来の成功の支えとなるもの）の素晴らしい子供たちの居場所を教育の中できちんと位置付けられるようなことを考えていただきながら、いじめと不登校の問題にも手立てを打っていく姿勢をきちんと持っていていただきたいです。それには台東区の伝統的な文化が非常に役立つのではないかと思います。

## ○委員長

今委員から話があった、非認知能力を生かすことは非常に大きな課題だと思います。今少子化の中で生産力を上げようという国の方針の中で、どちらかというと認知能力だけを優先させる傾向ですので、非認知能力がいかに関心の心を育てたり支えたりするかというのは大事な要素だと思います。むしろ不登校については、学校教育に対して「今の学校教育は間違っている」ということを子供たちは発信しているのではないかという気がします。それを国などもよく理解していて、不登校についての捉え方も変わってきており、むしろ「学校に行かないことの大切さも考えようではないか」という動きがあります。不登校の子供は今の学校システムの中では自分は生きられないけれども、例えば「上野の文化施設や美術館などにずっと通うことによって自分は伸ばせる」、あるいは「自分はパンダが好きだからパンダの研究をずっとしてみたい」など、そういうところで学校教育とは違った個性の伸ばし方があるかもしれません。そういう仕組みづくりも 20 年後には必要な気がします。

## ○指導課長

まずいじめと不登校を分けてお話しさせていただきたいと思います。いじめについては、各委員ご指摘のとおり、子供の非認知能力や心の育成をどう図っていくかというところが重要だと思います。ご案内のとおり、道徳が教科化されるということで、強化充実が図られることになっています。これはある意味、これまでの道徳の時間というのが、それこそひどい場合は授業数も確保されない、授業の内容についても、登場人物の気持ちを追うだけで終わってしまって、それを自分の問題として考えるところまで到達していないのではないかと、こういった指導面についての改善を図ることが、今回の強化の大きな一つの目的と考えています。そういったところから、とにかく学校では、この道徳や人権教育、あるいは全ての教育活動を通じて、子供たちの心の育成を図っていく必要があると考えています。いじめについては、認知件数の数が増えている現状もありますが、これはむしろ

悪い点ばかりではなく、私たちとしては、学校に対して常にきめ細かくアンテナを張って、また報告をすることについて、必ずそれをためらわないようにしてほしいとしていますので、そういう意味合いもこの増加の数には表れていると思います。引き続きここはしっかりと子供たちを見つめていくことを大事にしたいと思っています。

不登校については、国も含め、その不登校についての様々な考え方があることは私たちも認識しています。ただ、私たちは公立学校を所轄する立場ですので、一番好ましいのはやはり子供たちの不登校の解消を図って、学校生活に戻ってきてくれることを一番に考えて進めているところです。

## ○委員長

皆さんご覧になったかと思いますが、この間 NHK のテレビが台東区の道徳の授業を取り上げていました。台東育英小でしたか、非常に良い授業を展開していました。

それから、いじめの件は、先ほどおっしゃったように、認知件数が多いというのは、ある意味では先生方がよく子供を見ているという証でもあるので、大事な指摘をしていただいたと思います。

これは 20 年後を見越してのことなのですが、子供の発達や、切れ目のない子育ての考え方からすると、子供は 0 歳から 6 歳、6 歳から 12 歳、12 歳から 18 歳、18 歳から 24 歳の 6 歳刻みで発達するのではないかと考えています。そういう意味では、6 歳から 12 歳の小学校教育は、台東区は非常に良い文化で、地域性が非常に富んでいるので安定しています。しかし 12 歳から 18 歳は、義務教育の考え方もあり中学校で一度分断しています。そこで、都立学校との関係があるので、難しいのは重々承知なのですが、台東区が全国に先駆けて、区立の中高一貫ができないかと考えています。子供たちの発達からすると、思春期の難しい時期は、中高一貫のほうがある意味ではずっと教育しやすい、先ほど言った非認知能力の面でも高い気がするのです。そういうことは、他の中高一貫校でも成果が出ているものがありますので、それを踏まえながら、台東区は 20 年後には区全体が中高一貫になり、更に、可能であれば台東区が文化芸術大学をつくるような発想があっても良いのではないかと思います。文化、芸術という台東区全体をキャンパスにした大学の体制、そこで世界各国から研究者を呼び込む、そういう構想もあっても良いのではないかと思います。現状があっても、その現状に追随するような形の教育を、今子供たちは求めているのかもしれませんが。

奇想天外な話をしたかもしれませんが、台東区がそういうビジョンを持つことによって、台東区外の私立学校に行くという発想ではなく、台東区に住み続ける、そういう起爆剤になると思います。その辺は、根底を踏まえてビジョンを見通すような構想を考えていかないと、子供の成長に応じきれないのではないかと思います。台東区が先に大学まで構想し、特に中高一貫教育をきちんとして台東区が特区を受けて、世界に誇れるような教育をつくってもらいたいと思います。

## ○委員

区内においても「ある中学校は学力が低い・荒れている、だから皆区外の中学校に行こう」というように、地域の学校がないがしろにされている面もあります。地域に残って教育を受けることで、地域の方の知り合いも増えます。また、私たちが何か子育てで困ったときに、地域の方から色々アドバイスをもらったり、支えてもらったりできるのが地域の学校の良さだと思います。台東区は、世界に誇れる文化資源をたくさん持っていますし、小中高で地域を生かした教育が一貫してできるのは本当にありがたいと思います。私は今のお話を聞いて魅力を感じましたし、すごいビジョンだと思いましたが、できなくもないのかという気もします。台東区は良いところなのですが、いざその先の教育を受けるとき、他の私立大学等の方が通いやすいので、台東区を出て行ってしまう子の割合が実際多いのではないかと思います。なので、台東区に残ってこの地域を支えてくれるような教育の機会を具体的に考えて良いのではないかと思います。都立なら中高一貫がありますが、区立ではあまりありません。そういうものがもし台東区にできればありがたいです。

## ○委員長

ありがとうございます。教育構想というのは1年や2年ではできません。20年という機会を与えていただいているので、私はかなり可能ではないかという気がします。21世紀を自らの力でたくましく生きるということを考えると、高校生や大学生だけで学びの空間を作るのは可能だと思います。教育は先生が教えるだけの発想では駄目で、子供が自ら学び、子供たちのコミュニティを作ることによって成長するということは強くあるので、それにはやはり中学校で分断してしまうと、学びの構造ができにくいところがあります。そういうことを考えて、子供たちが自分たちで学びを作っていく、いろいろな発想をしていく、そういう力が台東区の子供たちにあってほしいと思っています。いろいろなかたちで実現できる方法を皆で考えていきたいと思っています。

## <生涯学習分野について>

### ○委員長

生涯学習の分野です。ここも子育て、学校教育と連動しているところですが、どうぞご意見をお願いします。

### ○委員

今委員長がおっしゃったように、生涯学習は子育てや教育と連動しているところだと思います。次の20年を見据えた場合、1つは生涯学習センターの在り方が課題かと思います。生涯学習センターができた当初はとても素晴らしい建物で、色々なところから視察に来られました。この生涯学習センターを今後どのように生かしていくかというのが1つだと思います。

それから図書館です。今は色々な図書館が誕生しています。それと比べて、台東区の今の図書館の現状はどうかと考えると、20年先ですから、奇想天外というか、もっと違った形の図書館についても考えて良いのではないかと思います。区民にとって最も親しみのある施設なので、その辺も踏まえて、現行にないような形も良いかなと思っています。

それから、図書館と連動するのですが、読書の機会についてです。今の児童は、学年が上がっていくたびに不読率が増えています。スマホやインターネットが20年後どうなっているのか分かりませんが、なかなか本に親しめないという現状を踏まえても、読書の重要性をどう訴えていくのかが肝になってくるかと思います。

それからスポーツ環境ですが、区民ワークショップでも、「日本一の文化とスポーツ施設の建設」という意見がありました。委員長や各委員からもあったように、文化に関しては、「台東区はすごい」と自負しているところですので、スポーツ施設をどうしていくかを考えていっても良いのではないかと思います。このような形でシートにもスポーツについて記載していますので、そこまで言うのであればやらなくては駄目です。次の20年を見据えて、日本一の文化とスポーツ施設を本気になって作りましょう。私からの意見は以上です。

### ○委員

生涯学習の分野は、特にスポーツはそうだと思いますが、今後も施設を中心にサービスを提供していくという部分と、施設を介さずに、インターネットでの対応や、自動化の技術が進むことで対応できる部分に分かれていく可能性があります。場合によっては図書館サービスも、わざわざ施設に来て紙の本を借りるということから、タブレット上で全部読めるようになる可能性が出てくるかもしれません。そうなった時、1つは施設の在り方をどのように考えていくかです。もしかすると、今までのような箱物は要らなくなっていくかもしれません。20年ですぐということはないかもしれませんが、そういう方向性はあると思います。他方で、きちんと生涯学習の場として人が集まって交流するということが必要な場面もどうしても出てきます。20年後この分野に関しては、そのような二つの方向性

の違いが出てくると思います。

### ○委員長

先ほど事務局からの資料を見ますと、今の委員のお話のように、AI（人工知能）やネット環境によって読書環境が随分変わるだろうという気がします。それから、生涯学習センターの改善ということも、これも私はとても興味あるところです。生涯学習センターができて20年ぐらいになったのでしょうか。

### ○事務局

平成13年の確か10月ぐらいだったと思います。ですから16年です。

### ○委員長

これができた頃、私も何回かお伺いして、とても環境が良く、参加者もとても多かったような気がします。担当の方にお伺いしたいのですが、生涯学習センターができた時と現状で、どのような点が違って、どのような点が課題なのか、教えてもらえますか。

### ○生涯学習課長

生涯学習センターができて16年たちまして、基本的な役割については変わっておらず、図書館などの複合的な施設となっており、生涯学習センター以外に社会教育センターという施設があり、全体で学習の場としてやっています。現状では、16年たちまして、先ほどAIのお話もありましたが、今までの机とテーブルと黒板があれば学習できた時代から、だんだんネットを使って学ぶという使い方をするようなことが1つ課題として挙げられます。またもう1つは、先ほども意見にありましたが、人と人が出会って触れ合う、家庭教育学級を含めて人と人が交わる場としての役割もあります。そういった新しいニーズが出てきていまして、我々自身も新しい学び方を模索している最中です。今日いただいた意見を踏まえて今後検討していきたいと思っています。

### ○委員

外国人を対象とした日本語教室も、直接教室に行って教える場合と、自宅からネットを使って、海外にいる学生さんに教える場合があります。国際交流基金が作っている「まるごと日本語」というホームページがあるのですが、周りに日本語学校がなく日本語を学ぶ教材がない方でも、そこにアクセスすることで、日本語に興味のある方たちと一緒に自由に学び合える仕組みが完成しています。世界中にいる日本語愛好者がそこに集まり、武道や漫画など色々なカテゴリーに分かれた教室で共に学び合える仕組みです。高齢化してくると、生涯学習センターに行って学びたくても外出できないことがあると思います。自宅にいながら学べる仕組み、不登校の子も学校に行きたくないけれどもこういうことに興味

があって学びたいなど、区ならではの自宅にしながら学べる仕組みは可能であるし、もうやっているとありますので、是非進めていただきたいと思います。

生涯教育の在り方としても、先ほどお話に出ていた地域の放課後のクラブ活動などにも、大人の方が学んだことを地域で生かしていく仕組み、担い手をつくっていくようなネットワーク、そのようなことは進めていくべきではないかと思います。

## ○委員

今の意見に私も同感です。インターネット環境が、これからどんどん進んでいくであろうという前提の下、基本的に必要な情報や学びを区民全体に行き渡るシステムづくりを推進していただきたいと思います。ただもう1つ、確かにインターネットで全部見られる時代が来るでしょうけれども、これからの高齢化社会において、インターネットに加えて顔が見える関係を地域でつくっていくことも必要だと思います。その上で、図書館を、知の拠点という考え方で、顔が見える関係、そこで資格を得た方が次の世代に縦につながっていく学びの場という位置付けにしていければ良いと感じています。20年後は、図書館で育った世代が多分60歳以上になっていきます。読書量は減っているけれども、赤ちゃんの時代から図書館を身近に利用してきた方たちが、図書館を利用する高齢者になっていくということを考えると、台東区としてはそのような場所を拠点として作っていければ良いと感じています。

## ○委員長

ありがとうございます。知のセンターとしてどのように確立していくのかということ、縦につながっていくこと、非常に良い指摘をいただいたと思います。生涯学習センターは、区民が活用しやすい、そして広がりのあるところで、もしかしたら高齢者が気軽にお茶を飲みながら本を見て何かをするなど、そういう使い方も十分にあるわけです。大学などの施設ではラーニングコモンズという、しゃべる場、コミュニティを作る図書館もできています。そういうものが一つの生涯学習の転機になるのではないかという気もします。

そのような意味では、これも夢のような話なのですが、役所の方がデスクに座ってお仕事をされるだけではなく、週5日間のうち2日間は自分の所管する地域を自由に歩いて、区民と一緒に仕事をする、そういうことをするのも良いと思います。例えば生涯学習センターであれば、スポーツジムがありますので、そこでスポーツして汗を流す体験を週2日ぐらいやる、あるいはそこでお茶を飲む、そういうことがないと生涯学習にならない気がします。

なぜ私がこれを言うかということ、20年後には、生涯学習を区が所管するのではなく、区民が所管する方が良いのではないかと思います。その橋渡しを最初の10年位で区役所の皆さんが行政的、専門的な立場から法整備をしていただき、残りの10年位で区民の人たちがほとんど所管をしていく、区の建物を借りて、あるいは場合によっては収益を上げるよう

な事業もあるかもしれません。そういうかたちを取りながらいくのが、ある種の生涯教育の在り方なのではないかという気がします。場合によってはリスクもあるかもしれませんが、行政の主導から外れていく、行政から思い切って区民に任せるという発想はどうなのかと思っています。区役所に直接関わっている方々が区の実情を知る意味で、週に1日か2日は台東区に職場がある、外へ出て職場を持つというのはどうかという提案をしたいと思っています。

先ほど提供いただいた資料の中で、20年後ぐらいに「人工知能やロボット等による代替可能性が低い100種の職業」があります。ここに挙げられている代替が不可能な部分は、しっかりやる意味で読書をしなければいけません。この前AIの専門家に伺ったのですが、AIを発展させ共存するということを考えるとき、小中学校でやる読書がベースになるそうです。思考力がなかったらAIと共存できる力が育たないと言っていました。AIやロボットとの共存を考えると、やはり自分でじっくり考える、落ち着いた思考がベースにある人間ならではの哲学がなかったら、こういうものは位置付かないと思っています。

## ○委員

今色々なスポーツ施設が台東区の中でもあって、小学校中学校がコミュニティでスポーツに使えるようになっていきます。それでもやはり全然足りないのが現状です。私は和太鼓を指導しているのですが、大きい音がするのでなかなか練習できません。とても活動が盛んなので、もっと活動できる場所を作っていただきたいと思います。

全く関係ないのですが、リバーサイドの競技場は、せっかくスカイツリーが見えてとても良い場所なのに、なかなか利用者がいないように感じます。競技場の椅子のところに屋根が付いていれば良い、とよく話をしています。

## ○スポーツ振興課長

リバーサイドスポーツセンターの陸上競技場自体が老朽化してしまっていて、スポーツ振興計画で陸上競技場を含めて周辺施設を整備していこうという計画があります。その中で今ご要望の屋根などの施設、あとは新たなスポーツの機能を持てるようなことというのは、今後20年かけないで考えていきたいというところですので、そこは利用者のご意見を踏まえて進めていきたいと思っています。

## ○委員長

ありがとうございます。オリンピック等もあってスポーツの分野は20年でかなり変わる気がします。また、健康はベースになるので、区民がスポーツに親しむというのは大事な指摘だと思います。

## <パートナーシップ分野>

### ○委員長

パートナーシップの分野についてご意見があればお願いします。

### ○委員

パートナーシップということで、今は管理職や民間企業の経営者、議員など男性が多いですが、次の20年を見た場合、女性がもっと活躍していくような台東区が望ましいと感じています。

それから、町会やコミュニティ組織の在り方もだいぶ変わってくるのではないかと思います。先ほどから話が出ているように、台東区は日本一の町会組織であると思っっているのですが、そうはいつでも町会の方や各団体の方が高齢化しているという現状があります。また、台東区の人口は増えていますので、どんどん増えてきている新しい住民の方がなかなか町会の活動に参加してくれない、そのような現状もあります。これは現在の課題でもあるのですが、次の20年を見据えた際、何かしら方向性を考えていく必要があるのではないかと思います。

区の抱える課題に、「姉妹友好都市をはじめとする全国のさまざまな都市との交流を進めていく必要がある」と記載されていますが、これは私も全く同感です。現在も台東区は様々な都市と、友好都市・姉妹都市の提携を結んでいるのですが、更に様々な都市とパートナーシップを結んでいくことは必要だと思います。先ほどスポーツ施設の件で、隣接区、隣接県との共同とお話ししましたが、そういうことにもつながってくると思います。お友達は多ければ多いほど良いわけですから、台東区はしっかり先陣を切っていくことが必要かと考えています。

### ○委員

外国人との共存について、具体的に仕組みを作っていくことを進めていかなければならない時代に入っていると思います。子育て、教育にしても、これと別に考えるのではなく、子供を通じて、ご家庭も日本、台東区の地域と関わっていくことが主な流れになってくるかと思っています。

現状、日本語を教える支援を区が実施しているのですが、外国の方がこの町に住んで、まちづくりの一員としてデビューしていけるような、生活そのもののサポート体制をつくっていくためには、組織あるいはコーディネーター的な人を作る必要があると思います。今は、ただ日本語を教えているだけで終わってしまっているのですが、台東区民として活躍してもらって重要な人材になってきますし、子供たちもそういった人たちと関わることで、将来生きていく上での財産になっていくと思います。今はありませんが、数年前までは台東区にも「国際交流委員会」のようなものがありました。色々な経緯はあるかと思いますが、この区が抱えている外国人も取り込んでまちづくりをしていくような、窓口・組織を

作っていく必要があるかと思えます。

学校の先生にしても、負担は増えていて、学力が落ちているという要因の一つに、外国人の子供が足を引っ張っているということも聞いています。それだけではないと思えますが、色々な事情があって外国人の子供は学校の勉強についていけないということがあります。そこを虐げるのではなく、一住民として受け入れ、お互いに学び合えるよう、専門家なり、それに従事する方を、有料で雇ったほうが良いかと思えます。

## ○事務局

委員ご指摘の課題は、パートナーシップ分野のシートの「区の抱える課題」の③に取り上げさせていただいています。まさに委員ご指摘のとおり、今までは支援というかたちで記載させていただいたのですが、外国人も地域社会の一員だという認識で、今後はそういった仕組みを作っていかなければいけないのではないかと、という考え方で事務局のほうでも整理をさせていただいています。この方向性に対する課題解決に向けた施策の方向性としては、一言になってしまっていますが、「多文化共生の推進」という中で、その取り組みをどのように具体化していくかということについては、今後の長期総合計画・行政計画の中で検討していくことになるかと考えています。

## ○都市交流課長

先ほど委員からご意見があった「国際交流委員会」ですが、以前そういうものがありました。現在は区の一部というか、そういったかたちで活動している団体はありません。ただ、社会教育団体として、地域の国際交流を支援するようなことを目的とした団体が複数あり、日本語を教える団体も含めてですが、そういったものは存在しています。その中で、行政としては、さまざまな提言と支援を行っているところです。そのような団体と行政との関わりについては、各団体の活動の趣旨を十分に理解しつつ、どのようなかたちのサポートができるかということで、色々検討しているところです。

## ○委員長

ありがとうございます。このシートにあるように、外国人の割合は、台東区は突出して多い状況ですので、20年後には、区民として受け入れるというか、それが当然のこととして区民の一員になっているということだと思えます。

これも余計な話ですが、例えば外国人の方であると、具体的な例で恐縮ですが、区役所の職員にはなれないのか、あるいは議員さんになれないのか、そういうことはあるのですか。

## ○事務局

詳細な情報は手元にないのですが、一部の職種では外国人の方でも採用はされるという

ことは伺っています。

### ○委員長

例えば議員に立候補するのは、外国人の場合はできないのですか。日本国民でなければ被選挙権はないですか。

### ○委員

帰化された方は当然外国出身の方でも立候補できますし、投票する権利もありますが、外国人の場合は今のところはできません。職員も、確か公権力の行使に関わることはできないということです。例えば窓口の業務でも、何かの審査や判断をする、申請書が出てきて、それがきちんと正しいものとして判断するというような業務に関しては、外国人の方ではできないとされています。

### ○委員長

ありがとうございました。私がそういう発想をしたのは、区の中でそのような部署がなくなったという話の情報提供があったのですけれども、これから何らかのかたちで構想していくということを考えたときに、肌感覚で分かる人が必要のような気がします。雇い方はどういう形でやっても、そのようなことのお手伝いをいただいて、ご意見をいただくなど、そのように直接関わっていただかないと浸透していきません。とりわけ学校教育では先ほどあったように、外国出身の子供の学習が困難という状況は当然あるわけです。そのようなサポートにも直接関わるときに、そういう人を同じ俎上に乗せるのは大事な気がします。それも20年後の社会は当たり前になっていく、そういうことが一つ構想されて良いのではないかと申上げておりましたところですが。

### ○委員

私自身、3年前に引っ越してきたいわゆる新住民といわれる者です。住んでみると、まだまだ知らない個性豊かな区の姿を知るとともに、地元住民の方の地域ぐるみで子育てを応援してくれているような温かさを感じています。私のような、まだ台東区での生活が短い区民と、以前から住んでいる方々がきっぱりと二分されるのではなく、うまく融合できるのが台東区の特徴だと思います。課題解決の方向性で、誰もが互いに尊重し合える社会の構築とあります。この「誰も」には、外国人や子供、高齢者、障害者の他、長く住んでいる方と新住民なども含まれていると思いますが、そこが区の良いところだと思います。

### ○委員長

今子育てをされて、融合できる、それが精神的にそうならないと、なかなか物理的には難しい部分があるので、その辺をこれからの大きな課題として、パートナーシップという

ときは、どちらかというとなにかを作れば良いというような発想ではないような気がします。色々な人たち、区民全体がお互いに台東区の一員として何ができるかという自分の知恵を出し合う、それを逆に行政がサポートする、区民全体をサポートする、それがパートナーシップなのではないかと思います。

### ○委員

これだけ住民の中で外国人の割合が増えてきていますので、個々に対応策を考えるのではなく、活用できる共通のフォームを区で保管し、必要な際インターネットで出すことができたりしていかないと、今後は厳しいのではないかと思います。イスラムの方など、体を清めてお祈りをする時間にお祈りの場がないとトイレでお祈りをするため、便座が濡れた状態になっていたりします。次に使う人のことを考えて、トイレでそういうことをしてはいけないというステッカーを浅草寺の前の大きいトイレなどでも貼ってありました。これは観光だけではなく、住んでいる方にも関係するものなので、縦割りで考えずに、観光として使っている外国人への資材もどんどん共有していけると良いのではないかと、一元化できないかと思っています。

### ○委員長

良いアイデアで、一元化するというのはとても大事なことだと思います。

パートナーシップは多様性を求めるだけに、知恵の発揮しどころだと思います。先ほど委員がおっしゃったように、「新しい人が来て不安のない安心して住める台東区」ということがキャッチフレーズになってくると思うので、できれば肌感覚で分かるような関わり方、そこまでこないとなかなか頭の中では理解できない部分があるのではないかと考えています。次回第3回のときに、また具体案を見ながら一緒に考えたいと思っています。今日の審議はこれまでにしたいと思っています。事務局のほうで何か連絡等ありますか。

## 3. その他

### ○事務局

—次回審議会についての説明—

## 4. 閉会

### ○委員長

では、ぜひ良いお年をお迎えして、新しい構想、20年後の構想を作りたいと思っています。委員の皆さま、そして事務局の皆さま、ご協力ありがとうございました。これにて今日の会議を終わります。ありがとうございます。

(午前12時00分閉会)